

「膵」は日本の国字！

古い漢方医学では、ヒトの臓器は「五臓」(心、肺、肝、脾、腎)と「六腑」(胃、小腸、大腸、膀胱、三焦、胆)から成り、膵は知られていなかった。

西洋では、紀元前4世紀には既に、アリストテレスの動物誌に「腸間膜の脈管が集まる部位に肉塊がある」と記され、現在の英語名と同じ**パンクレアス(pancreas)**と呼ばれていたという。

日本では、1805年出版の「医範提綱」の著者宇田川玄真が、パン(すべて)を集めるクレアス(肉)を意味する日本語として、月(肉づき)に萃(すべてを集める)をつけた「膵」を考案した。

「膵」は中国に伝わるが、野蛮人が作った字として夷(エビス)に書き換えられ、今も「胰」が使われている。

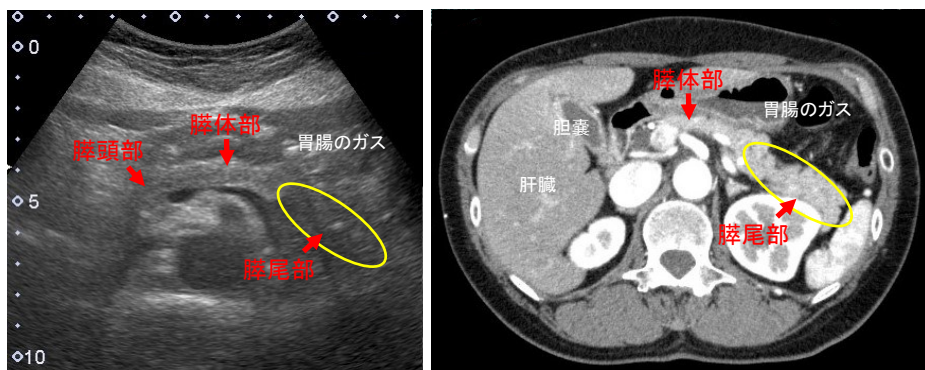
健康♪外来ニュース

膵臓が描出不能とはどういうこと？

健診やスクリーニング目的で、**腹部超音波(エコー)検査**を受けた結果、膵臓が描出不能(観察不十分など)と言われた方は多いのではないのでしょうか。膵臓は胃の裏側の深い部位にあり、手前に脂肪や消化管ガスがあると超音波が減衰するので、膵臓のとくに頭部や尾部が十分に観察できない場合があります。体位変換や呼吸調整などの工夫をしても、膵臓全体がしっかり観察できるのは半数程度に止まります。

人間ドック学会の基準では、「膵臓一部描出不能」の場合は「CTなど他の方法で精密検査が必要」と判定されます。

腹部CT検査では、脂肪やガスに影響されずに膵臓全体が観察できますが、数ミリ程度の小さな病変は見えにくい欠点があります。膵臓がんの早期発見には、毎年のエコー検査と数年に一度のCT検査(できれば造影CT)が勧められます。



(左)エコー検査では、胃や腸のガスに邪魔されて膵臓の尾部がよく見えない。
(右)CT(造影)検査では、膵臓の尾部もはっきり見える。

膵臓のさらに詳しい検査は？

エコーやCT検査で、**膵臓がん**に**注意すべきサイン(腫瘍、嚢胞、膵管拡張)**が見つければ、慎重に経過観察するか、悪性所見の有無を判断するために詳しい画像診断を行います。MRIを用いるMRCP(磁気共鳴胆管膵管造影)、EUS(超音波内視鏡)、PET(陽電子放射断層撮影)などが必要と判断した場合には、当院から専門施設へ紹介いたします。



医療法人 祥佑会

藤田胃腸科病院

〒569-0086 高槻市松原町17-36

TEL 072-671-5916

FAX 072-671-5919

健康♪外来

水曜日 14:00~17:00(要予約)

担当：中嶋